

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401681		
法人名	有限会社 共和		
事業所名	グループホーム ひまわりそう		
所在地	長崎県南島原市有家町尾上1608番地1		
自己評価作成日	令和2年7月20日	評価結果市町村受理日	令和2年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和2年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有明海が一望でき湯島がくつきり浮かび非常に眺めがよく、廻りに田畑が広がり心豊かな気持ちになります。利用者の尊厳を守りやさしい言葉かけをしてひまわりのような笑顔で「このホームに来てよかった」「長生きしてよかった」と言って貰える支援を入居者、家族の皆様、職員と共に目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南島原市中心部より車で3分程の静かな高台にある当ホームは、北側に雲仙岳、南側の眼下に有明海と湯島・天草が見渡せる風光明媚な場所にある。全職員が笑顔のあるホームを目指しており、入居者一人ひとりとの対話を重視した支援に努めている。折り紙や音楽鑑賞、風船バレーなどのレクリエーションに積極的に取り組むほか、食への楽しみとしてたこ焼きや焼きそば、季節を感じられるそうめん流しを職員と一緒に楽しむなど、共同生活を営む中で入居者同士が良好な関係性を保ちながら充実した日常生活を送れるよう支援している。開所より17年が経ち、入居者の高齢化や看取りにも対応できるよう主治医や訪問看護師と連携し充実した健康管理を行っている。ホームを「終の棲家」として望んでいる入居者や家族もおり、ホーム全体で家族的な関わりを持ちながら支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ひまわりそう1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝申し送りの際に復唱し確認している。毎年各棟ごとに年間の目標を作成し達成に向けて努力している。	ホームの出入口や共用部分などの目につく場所に理念を掲示し職員への周知を図るとともに、毎日の朝礼で復唱することで理念の再確認を図っている。職員は理念をもとにし、入居者が心安らげるような暮らしを目指して日々の支援に取り組んでいる。	ホーム理念が職員へ十分に浸透していると言えず理念の周知状況に課題が窺える。ホーム理念や支援の方向性について職員間で振り返りを行うなど、入居者へのより良い支援へと繋げられるよう取り組むことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の機能が年々と段々と行事に参加するのも難しくなっているが、近くの方が野菜を持ってきてくださる。昨年は敬老会で子供や婦人会様が踊りを披露してくださった。	現在、新型コロナウイルスの影響で地域行事へ参加することができない状況であるが、これまでは地域小学校の文化祭や運動会といった学校行事の見学を行っている。また、入居者と一緒に制作した作品の地域の文化祭への出展や、敬老会を開催した際には地域の子どもや婦人会による踊りの披露があるなど、積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について、ホームで対応状況をスーパーや銀行職場で出会った方にお話したり又地域の人々に話す機会がある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年1月に会議を開き、3・5月は代替措置として委員さんに報告し同意を得ている。令和元年は会議を開きホームの状況を報告をし助言をいただきサービス向上に活かしている。	昨年度末及び今年5月の運営推進会議は、コロナ禍の状況にあることから運営推進会議メンバーへ書面で報告し、意見や感想、同意を得ている。尚、7月の運営推進会議は運営推進会議メンバーが出席して開催することができており、ホームの状況報告を行うとともに、メンバーからの助言を入居者へのサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の保護課や社会福祉協議会や地域包括センターなどの職員に相談して協力を得ている。	ホームには日頃から地域包括支援センター職員や市職員の訪問があり、連携を図りながら協力関係の構築に努めている。ホーム利用料や通院送迎時の諸費用など運営に関する疑問点について相談するとともに、得た助言を活かせるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し理解しているが、最近では事故まではつなげていない。ヒヤリハットの実例が多く発生している。目のとどかない時は家族の同意を得て実施しているができるだけ、実施しないように努めている。	身体拘束について、ホームでは全職員を対象とした施設内研修を開催し、自己研鑽に努めている。また、2か月に1回行う身体拘束廃止委員会を通してホーム内で挙がったヒヤリハット事例を検証している。入居者の現状を分析し、身体拘束の三原則(切迫性・非代替性・一時性)について職員間での検討を踏まえ転倒などの危険性や事故防止の観点から家族の同意を得て短時間の身体拘束を実施していることが窺える。	ホームでの身体拘束廃止に向けた取り組みを進めていくために運営方法や職員体制といった組織として取り組むべき課題を整理・検討し、そうした課題の解決に向けて積極的に取り組むことで身体拘束をしないケアに繋げていくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対にしてはならないこと。研修を受けて理解を深めている。言葉遣いや威圧的な態度にならないように気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数名の方が権利擁護の制度を利用されている。月に1回後見人と話し合いの機会をつくり話し合い色々な面で支援してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームを見学してもらい重要事項説明書について説明し同意をえて納得されて契約書を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時に利用者の様子を報告し、その際に家族から要望を伺い活かしている。	職員は入居者の面会に家族が訪れた際、入居者の普段の様子を伝えるほか、ホームに対する家族からの要望を聴き取っている。また、ホーム入口に意見箱を設置したり毎月ホーム便りを送付する際に意見を求めたりするなど、ホームの運営に活かすよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案がある。ケア会議でその都度管理者に話し、できるだけ反映させている。	ホームでは毎月ユニット毎にケア会議を開催し、その際に出た職員の意見や提案をホームの運営に活かしている。最近では職員・入居者双方の体力面や職員の腰への負担軽減を考慮し、臥床したまま入浴可能な機械浴や電動ベッドを購入するなど、入居者へのケアの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康管理にも適応している。話し合いの機会をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内研修に参加したり、広域圏の研修も全職員が参加し、学んだことをケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで他の施設の職員と交流し意見交換などを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での不安なおもいに配慮しながら安心できる環境作りにつとめ少しでも早く不安が取り除かれるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や思いを聞きながらホームに少しでも早く慣れてもらいコミュニケーションを取りながら信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供者や本人ご家族の要望や希望を聞きながらまずホームに慣れて頂くように対応しその都度必要な支援ができるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを大切に暮らしを共にする一員としての関係を築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には利用者の日頃の様子を話している。できるだけご家族に面会に来ていただけるようにはたらきかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方が会いに来られるので関係がとぎれないように又会いに来ていただくようお願いしている。	現在、新型コロナウイルス感染症対策として、入居者の友人及び親族等の面会についてはホーム玄関のガラス越しで会話ができるよう対応している。また、買物や美容室利用の際には入居者馴染みの場所に行くことができるよう支援しており、馴染みの人や場との関係性が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や心身の状況を把握し時には職員が会話の橋渡しをしながら穏やかな関係が築けるように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にご家族と会った時は、どうされているかを尋ねるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望要望を聞き、その人らしく生活ができるように努めている。意思の疎通が困難な人にはご家族と相談しながら支援するようにしている。	職員は入居者の要望や困りごとなど直接聞き取ることで本人の思いや意向を把握しており、意思の疎通が困難な方については日頃の様子から思いを汲み取るよう努めている。把握した入居者の思いや意向をもとに、一人ひとりの暮らし方の希望が叶えられるよう家族と相談しながら支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の情報を職員間で共有しコミュニケーションを取り、信頼関係を築きながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日頃の様子を把握し変化があった場合にはいち早く気づけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で利用者の状態を共有し意見を出し合いご家族の意向をふまえて利用者の現状にあった介護計画になるようにしている。	ケアプランは毎月ユニット毎に行うケア会議で担当職員及び全職員から意見を広く求め、入居者本人や家族が心地良く過ごせる計画作成に努めている。また、入居者本人及び家族へ分かりやすい説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と少しでも違うことがあれば介護日誌に記録している。特に重要な情報は連絡帳に記録し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア会議で利用者一人ひとりの心身の状況を把握し新たにできるニーズに向けてどんなケア、支援を行っていくのか話し合い必要な時はご家族にも協力してもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりの状態を見極めできることを考え、毎年市の文化展に利用者のもっておられる力を出してもらい作品を作り出展している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望をもとにかかりつけ医を決定している。定期受診の支援、往診時には利用者の状態を報告し適切な治療を受けられるように心がけている。	ホームでは入居者本人及び家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行っており、入居者が適切な治療を受けられるよう努めている。定期受診の際の職員付き添いやホーム協力医による訪問診療、週1回協力医療機関看護師による訪問の際には入居者の健康状態を報告するほか、医師からの指示及び助言を日々の支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医療連携で看護師が訪問される際にいつもと違う場合には相談し適切な受診につながるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	急変した場合には早期に入院してもらっている。入院・退院時には情報が共有ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のご家族の要望を踏まえホームでの対応を話し合っている。看取りを希望された場合にはかかりつけ医、ご家族にも協力してもらい対応している。	入居時に入居者が重度化や看取り期に至った場合のホームでの支援等について本人や家族と話し合い、要望に応えられるようかかりつけ医等と連携して取り組んでいる。本年2月には1名の看取りを実施している。職員は入居者への看取り支援が十分できるよう研修会へ参加するなど日頃から研鑽に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会などに参加し事態に備えているがまだ職場全体で事態が起こった場合の対応を話し合い必要に応じて研修する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	各棟ごとに1回ずつ年に2回夜勤帯昼間など状況を設定して火災時の避難訓練を実施している。毎年のように大雨などの災害が起きているので災害時の避難訓練を行って欲しい。	ホームでは毎年各ユニット交互で年2回、日中・夜間帯を想定した消防避難訓練を実施しており、水消火器を使用した消火訓練、風水害や地震等を想定した防災訓練を行っている。また、緊急時に入居者の安全を確保できるよう地域の消防団とも日頃より連携している。	2ユニット裏側の避難経路が一人一人通れる程度と狭く、また、傾斜も急であることを踏まえ、改めて入居者の安全を確保できるか検証し、適切な避難経路を確保することが望まれる。また、自然災害などの緊急事態に備えて十分な備蓄品を確保するとともに、備蓄状況を管理するための一覧表を整備することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に言葉遣いにも配慮している。	ホームでは入居者一人ひとりの人格を尊重し、些細なことでも自己決定してもらうなど尊厳ある介護を基本とした支援に努めている。職員の言葉遣いも目上の方に敬意を払った親しみやすい方言を使用しており、全職員が日頃から言葉遣いに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも本人に関わりがあるのなら職員が決定するのではなく本人に決めてもらうようにしている。意思疎通が困難な人もおられるので職員が様子を見ながら決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせていただくこともあるが、利用者一人ひとりのペースに合わせて一日を過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に行かれる方もいるので送迎をしている。そのほかの方たちは職員が散髪をしている。洋服は季節感に合わせたものになるように声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なかなか一緒に食事の準備をすることが難しいが食事が楽しいものになるように季節に合わせた食材やメニューにして季節を感じてもらえるように心がけている。	ホームでは入居者本人の残存歯の有無や義歯の使用、嚥下の状態や食事形態のトロミ・刻み・ミキサーの必要性、好き嫌いやアレルギーを把握することで一人ひとりに合った食事を提供している。また、季節の食材やホームの菜園で採れた野菜を食卓に並べたり、夏はそうめん流しに行き季節を感じてもらったりするなど、入居者が楽しみながら食事を摂れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じてミキサー食にしたり、食材を刻んだり麻痺がある人には水分にとろみをつけたり食事の提供は話し合いながら工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方にはケアを行っている、自分でできる方も完全にはできない方もおられるので磨き直しが必要な方には介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見たりして、トイレ誘導の声掛けをしている。	職員は入居者一人ひとりの排泄状況を排泄チェック表に記録し、排泄パターンの把握に繋げている。排泄前の入居者への声掛けにより排泄の自立に向けて支援しつつ、排泄を失敗した際の本人のプライドを傷つけない対処やオムツ使用を減らす工夫をするなど支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取って貰ったり食事にも工夫している。自然な排泄が難しい方にはかかりつけ医に相談し便秘薬を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、入浴日を設定している。季節を感じてもらうため5月に菖蒲湯、12月にユズ湯などを行っている。	ホームでは週2回入浴日を設定しており、昼食後から夕食前までの時間帯に入浴支援を行っている。また、臥床したまま入浴可能な機械浴を導入したことで職員の腰の負担が軽減されたほか、入居者もゆったりと入浴することができている。職員は入居者が入浴を楽しめるよう季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を提供している。	現在、ホームで設定した入浴日と時間帯となっている。現状の入浴日の設定や時間帯が入居者一人ひとりの希望やタイミングに合ったものかを検証し、本人が入浴を楽しむことができるよう支援することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間逆転にならないように昼間は活動をおおくしてもらい夜間はよく休まれるように心がけている。それだけでは眠れない方には医師に相談し眠剤を処方してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員間で共有している。主治医と薬剤師に相談しながら錠剤が難しい人には粉砕してもらするなどその人に合わせた服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には洗濯物をたたんでもらったり、施設の軽作業を手伝ってもらったり、テレビを観ながら雑談したり風船バレーなどのレクリエーションを楽しんでもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診や棟外を散歩をしたりしている。昨年は雲仙の紅葉見学にいった。	入居者は日常的にホーム敷地内にある菜園を眺めに職員とともに戸外へ出ることによって気分転換を図ることができている。また、紅葉見学などホーム全体での外出のほかに、入居者が希望する店への買物や通院、ドライブなど個別の外出支援を行っている。必要に応じて家族に協力を仰ぎ、家族と一緒に外出する機会を設けるなど外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為の物忘れがあらわれるのでお金を所持していると紛失してしまう可能性が大きい。個人的に持たせるのは厳しい面が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安全に過ごされるように床には物を置かないようにしたり、机やイス、ポータブルトイレの位置にも注意している。壁には行動の写真を掲示し楽しんでもらえるようにしている。	ホーム共用空間には職員と入居者が共同制作した折り紙のアジサイなどの作品や、そうめん流しなどの行事の写真を掲示している。ホーム内の室温は27℃に設定することで入居者が過ごしやすいう配慮している。また、畳の間を設け、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされる方も自室で過ごされる方もおられるしそれぞれ自由に過ごして頂いている。利用者同士で雑談される事も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には利用者にとってなじみ深い物や使用している物を持ち込み落ち着く空間になるようにしている。整理整頓に心がけている。	居室には入居者の慣れ親しんだ筆筒や絵、テレビや仏壇などを持ち込むことができ、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。また、入居者の移動する際を考慮し、動線に物を置かないようにしている。入居者の体調に応じ、より楽な姿勢が取れるようホームで電動ベッドを購入し、提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の危険がなく歩ける方車椅子の方も安全に過ごしていただけるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ひまわりそう2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝申し送りの際に復唱し確認している。毎年各棟ごとに年間の目標を作成し達成に向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の機能が年々と段々と行事に参加するのも難しくなっているが、近くの方が野菜を持ってきてくださる。去年は敬老会で子供や婦人会様が踊りを披露してくださった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について、ホームで対応状況をスーパーや銀行職場で出会った方にお話したり又地域の人々に話す機会がある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年1月に会議を開き、3・5月は代替措置として委員さんに報告し同意を得ている。令和元年は会議を開きホームの状況を報告し助言をいただきサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の保護課や社会福祉協議会や地域包括センターなどの職員に相談して協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し理解しているが、最近では事故まではつながっていない。ヒヤリハットの実例が多く発生している。目のとどかない時は家族の同意を得て実施しているができるだけ、実施しないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対にしてはならないこと。研修を受けて理解を深めている。言葉遣いや威圧的な態度にならないように気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数名の方が権利擁護の制度を利用されている。月に1回後見人と話し合いの機会をつくり話し合い色々な面で支援してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームを見学してもらい重要事項説明書について説明し同意をえて納得されて契約書を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時に利用者の様子を報告し、その際に家族から要望を伺い活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や提案がある。ケア会議でその都度管理者に話し、できるだけ反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康管理にも適応している。話し合いの機会をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内研修に参加したり、広域圏の研修も全職員が参加し、学んだことをケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで他の施設の職員と交流し意見交換などを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での不安なおもいに配慮しながら安心できる環境作りにつとめ少しでも早く不安が取り除かれるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や思いを聞きながらホームに少しでも早く慣れてもらいコミュニケーションを取りながら信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供者や本人ご家族の要望や希望を聞きながらまずホームに慣れて頂くように対応しその都度必要な支援ができるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを大切にし暮らしを共にする一員としての関係を築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には利用者の日頃の様子を話している。できるだけご家族に面会に来ていただけるようにはたらきかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方が会いに来られるので関係がとぎれないように又会いに来ていただくようお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や心身の状況を把握し時には職員が会話の橋渡しをしながら穏やかな関係が築けるように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にご家族と会った時は、どうされているかを尋ねるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望要望を聞き、その人らしく生活ができるように努めている。意思の疎通が困難な人にはご家族と相談しながら支援するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の情報を職員間で共有しコミュニケーションを取り、信頼関係を築きながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日頃の様子を把握し変化があった場合にはいち早く気づけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で利用者の状態を共有し意見を出し合いご家族の意向をふまえて利用者の現状にあった介護計画になるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と少しでも違うことがあれば介護日誌に記録している。特に重要な情報は連絡帳に記録し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア会議で利用者一人ひとりの心身の状況を把握し新たにできるニーズに向けてどんなケア、支援を行っていくのか話し合い必要な時はご家族にも協力してもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりの状態を見極めできることを考え、毎年市の文化展に利用者のもっておられる力を出してもらい作品を作り出展している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望をもとにかかりつけ医を決定している。定期受診の支援、往診時には利用者の状態を報告し適切な治療を受けられるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医療連携で看護師が訪問される際にいつもと違う場合には相談し適切な受診につながるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	急変した場合には早期に入院してもらっている。入院・退院時には情報が共有ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のご家族の要望を踏まえホームでの対応を話し合っている。看取りを希望された場合にはかかりつけ医、ご家族にも協力してもらい対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会などに参加し事態に備えているがまだ職場全体で事態が起こった場合の対応を話し合い必要に応じて研修する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	各棟ごとに1回ずつ年に2回夜勤帯昼間など状況を設定して火災時の避難訓練を実施している。毎年のように大雨などの災害が起きているので災害時の避難訓練を行って欲しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に言葉遣いにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも本人に関わりがあるのなら職員が決定するのではなく本人に決めてもらうようにしている。意思疎通が困難な人もおられるので職員が様子を見ながら決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせていただくこともあるが、利用者一人ひとりのペースに合わせて一日を過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に行かれる方もいるので送迎をしている。そのほかの方たちは職員が散髪をしている。洋服は季節感に合わせたものになるように声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なかなか一緒に食事の準備をすることが難しいが食事が楽しいものになるように季節に合わせた食材やメニューにして季節を感じてもらえるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じてミキサー食にしたり、食材を刻んだり麻痺がある人には水分にとろみをつけたり食事の提供は話し合いながら工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方にはケアを行っている、自分でできる方も完全にはできない方もおられるので磨き直しが必要な方には介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見たりして、トイレ誘導の声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取って貰ったり食事にも工夫している。自然な排泄が難しい方にはかかりつけ医に相談し便秘薬を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、入浴日を設定している。季節を感じてもらうため5月に菖蒲湯、12月にユズ湯などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間逆転にならないように昼間は活動をおおくしてもらい夜間はよく休まれるように心がけている。それだけでは眠れない方には医師に相談し眠剤を処方してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員間で共有している。主治医と薬剤師に相談しながら錠剤が難しい人には粉砕してもらうなどその人に合わせた服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には洗濯物をたたんでもらったり、施設の軽作業を手伝ってもらったり、テレビを観ながら雑談したり風船バレーなどのレクレーションを楽しんでもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診や棟外を散歩をしたりしている。昨年は雲仙の紅葉見学に行った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為の物忘れがあらわれるのでお金を所持していると紛失してしまう可能性が大きい。個人的に持たせるのは厳しい面が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安全に過ごされるように床には物を置かないようにしたり、机やイス、ポータブルトイレの位置にも注意している。壁には行動の写真を掲示し楽しんでもらえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされる方も自室で過ごされる方もおられるしそれぞれ自由に過ごして頂いている。利用者同士で雑談される事も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には利用者にとってなじみ深い物や使用している物を持ち込み落ち着く空間になるようにしている。整理整頓に心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の危険がなく歩ける方車椅子の方も安全に過ごしていただけるように工夫している。		